

海外からの研修受け入れが決まったら？



不備があった場合は受け入れ
不可なので早めに確認すること
レントゲンは実習開始日から
3か月以内のものであること

- 感染対策書類
- 4種小児ウイルス
 - B型肝炎ワクチン
 - 結核
 - インフルエンザ

受入部署(責任者)

感染対策証明書に関して
受け入れ終了後3年が経過
するまで受け入れ部署で
原本を保管

感染対策上
不明なことを
相談する

研究科

感染制御部

病院

外国人客員研究員等
書類担当部署

研究推進課 総務担当
内線 7982

外国人短期・長期研修生、臨床
修練外国医師、外国人見学者等
書類担当部署

企画広報課担当
内線 6489, 6749

感染制御部のマニュアル最新版を確認のこと

- (1) 実習生・研修生等の受入れに関する
感染管理上の注意
- (2) 施設見学に関する感染管理上の注意
- (3) 海外からの受入れについて
※海外からの受入れに関する事務手続き

を参照のこと

場所: 医療端末 MUSCAT 最初の画面
お知らせ 院内HP→感染制御部のページ
→7. 実習生・研修生に関すること内

実習になるか見学になるかは
次ページフローチャート参照
(受け入れ身分の 実習・研修・見学と
感染対策上の 実習・見学は一致しません。)

岡大病院の見学には、感染対策が必要です

病院エリア(管理棟・臨床系医局も含む)に入る？

Yes

総見学時間は4時間以上？

Yes

No

No

感染対策上「実習」としての対応

- ①4種小児ウイルス疾患ワクチン接種歴
(1歳以上で2回以上の接種歴)
- ②B型肝炎抗体検査で陽性確認
あるいは1シリーズのワクチン接種歴
- ③結核検査(詳細版)
- ④インフルエンザワクチン接種
(10月1日から2月末滞在者のみ)

実習用の様式(Form1)を提出

感染対策上「見学」としての対応

- ①結核検査(簡易版)

見学用の様式(Form2)を提出

【立入できるエリア】

- ☆カンファレンスへの参加
- ☆講義への出席
- ☆研究室への出入り

注！【立入できないエリア】

- *免疫抑制患者が入院する部署
(小児病棟、Bioclean room など)
- *原則ICU系
- *患者が入室している、あるいは器械が
展開されている手術室の中

見学だけでも実習としての対応が必要

海外からの受入れ時の感染対策について

◆ 感染対策上「実習」としての対応

①4種小児ウイルス疾患ワクチン接種歴（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）

→それぞれのウイルス疾患について、1歳以上で2回以上の接種歴がある場合、
ワクチン手帳（International Certificate of Vaccination or Prophylaxis等）の該当部のコピー等
（大学教員、同僚医師等による英訳必須）の資料を提出すること。

→接種歴が確認できない場合、不足分の追加接種を行い（2回接種の場合は、4週間以上間をあける）、
現地医師の署名が入った英語の接種証明書（Certificate of infection control）を提出すること。

②B型肝炎

→抗体検査の陽性結果を提出すること。

→3回1シリーズ（0, 1, 6か月）のワクチン接種歴がある場合、ワクチン手帳や領収書などのコピー
（大学教員、同僚医師等による英訳必須）を添付すること。

③結核（詳細版）

→1. 結核感染歴・治療歴の聴取結果

→2. 胸部X線写真の所見（実習開始日から3か月以内の撮影）

→3. 血液検査（IGRA：T-spotあるいはQFT〔クオンティフェロン〕）の結果
（実習開始日から1年以内のもの）

④インフルエンザワクチン接種（10/1～2/28滞在者のみ。便宜上10/1にしているが、接種時期は日本の
流行時期に合わせて可。

◆ 感染対策上「見学」としての対応

①結核（簡易版）

→1. 結核感染歴・治療歴の聴取結果

→2. 胸部X線写真の所見（実習開始日から3か月以内の撮影）

診断書は日本語か英語であること。
検査結果やワクチンの証明のコピーにも
英訳を添付してください。